

令和8年度 佐賀市立小中一貫校芙蓉校 教育課程

1 学校教育目標

「学び ふれあい 伸びゆく 芙蓉」

2 本年度の重点目標

◎小中一貫校として「9年間で子どもを育てる」という共通認識をもち、全職員で協働と連携を行いながら、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む。

- ・児童生徒が主体的に学ぶための授業改善を行い、思考力・判断力・表現力の育成と学力向上を図る。
- ・児童生徒の個性や特性に寄り添い、全職員が協働して取り組む特別支援教育の体制の強化を図る。
- ・業務効率化と教職員の働き方改革を推進し、年次休暇取得の促進と時間外在校時間の削減を図る。

3 重点取組内容

(1) 学習指導の充実

- ・学びをつくる楽しさを実感できるように「課題を自ら見出し、考える」自己決定の場面を増やしていく。
- ・学習課題や単元計画をもとに、児童生徒が学習の見通しをもち、自分で設定した「問い」を解決しながら、主体的に学習活動に取り組む場を設定する。
- ・1人1台端末を積極的に活用し、自己決定し、他者と対話し、友達と試行錯誤・挑戦する場面を増やす。
- ・WEBQUを基に、児童生徒の実態を把握し、学習支援や学習環境等を改善し、学習指導の充実を図る。

(2) 生徒指導の充実

- ・月1回アンケートの実施、「いじめ防止対策委員会」を設置し、いじめの早期発見、早期対応につなげる。
- ・WEBQU等を実施して、学級集団の実態を把握し、集団づくり、個々の自己肯定感を高める取組を行う。
- ・小中合同で、生徒指導協議会を開き、児童生徒について共通理解し、全職員が協力して対応にあたる。SC、SSS、SSWと連携して対応にあたり、必要に応じてケース会議を行う。
- ・携帯電話、情報端末、ゲーム機器等(写真、動画、メールやSNS等)の取り扱いについて、指導を繰り返すし、授業を行う。また、保護者への啓発も行う。
- ・地域社会や育友会等と連携して、いじめ・問題行動の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努める。

(3) 特別支援教育の充実

- ・毎月の生徒指導協議会の中で、または必要に応じて情報交換を行い、支援の在り方について検討する。その後、チームを組んで児童生徒及び保護者を支援する。
- ・職員研修を実施し、障がいのある児童生徒への理解を深め、具体的な支援方法を学ぶ。
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、次の学年へのなめらかな接続を図る。
- ・特別支援学校の巡回相談を利用し、児童生徒の支援に役立てる。
- ・特別支援コーディネーターを中心に、学校生活支援員や特別支援学級支援員を積極的に活用する。

(4) 幼保こ小連携・小中連携の取組

- ・接続プログラム「えがお わくわく」に取組み、幼稚園・保育園から小学校への円滑な移行を図る。
- ・幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初、スタートカリキュラムを編成、実施し、生活科を中心とした合科的・関連的な工夫を行う。
- ・「えがおわくわく学校訪問」による参観や、小中から幼保こへ、園児・児童生徒及び教職員が互いに訪問し合い、園児理解及び児童生徒理解を深める。幼保こ小連絡会を学期に1回ずつ実施する。
- ・小中間の授業乗り入れや縦割り班活動等、指導の継続性や児童生徒理解を進める。

(5) コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の取組

- ・学校運営協議会を新設し、学校と保護者、地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子ども達の豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める。
- ・学校運営協議会の「学び部」・「育ち部」との連携を促進し、学校教育活動の充実を図る。
- ・地域人材を活用した授業づくりを進める。(例: 毎月の読み聞かせ活動、野菜づくり等の農業体験学習)
- ・蓮池町の行事や伝統芸能に関する学びを深める。(例: 鼓の胴松飾、見島のカセドリ祭りについての学習)
- ・地元企業と連携した体験学習を仕組む。(例: 職場体験学習、町たんけん)
- ・育友会や地域住民と協働し、子ども達の安全を見守る。(例: 登下校の見守り、防災訓練)
- ・学校評価及び学校関係者評価を活用する。